

令和3年度公益財団法人鳥取童謡・おもちゃ館事業報告書

実施事業（総事業費 155,535 千円）

新型コロナウイルスの影響

新型コロナウイルスの世界的大流行は3年目に突入し、社会は落ち着きを取り戻しつつあるものの、屋内施設である当館の事業運営は未だ強くその影響下にあります。当事業年度中には感染拡大の波が3度あり、GW前後の第4波、デルタ株による7月下旬からの第5波、オミクロン株による年明けから令和4年4月現在まで続く第6波、いずれも行楽シーズンの大半と重なったこともあり館の運営にとって大幅なブレーキとなりました。中でも第5波では、感染の急拡大により7月30日付けで県内全域に新型コロナウイルス感染拡大特別警報が発出されたことに伴い、8月に予定していたすべてのイベントが中止となるなど直接的な打撃となりました。感染者数の急増による警戒感から利用者の出足も伸びず、コロナ禍以前であれば1年のうちもっとも賑わう時期に、イベント準備の甲斐のないシーズンとなってしまいました。

しかし、当年度を振り返ってみれば暗い話題ばかりではなく、今後の事業の方向性もおぼろげながら見えてきた年度でもありました。なにより、前年度は1ヶ月を超える臨時休館を余儀なくされたことを思えば、一年を通して開館できたことは、外的要因によるものが大きいとはいえ、運営面の大きな成果でした。通年で開館できたこともあって、利用者数も昨年度の48,395人から56,126人に増え、緩やかではありますが回復基調にあります。

事業面においては、一年で最もイベントの多い8月のイベントがすべて中止となったことは集客的な痛手だったものの、検温の徹底や入場制限等の安全対策を施しながら、事業年度を通して大過なく文化事業を実施することができました。

昨年度に比べ多くの文化事業を実施できたこと、また童謡館、おもちゃ館それぞれの基金事業を実施したことなどにより、法人としての総事業費は155,535千円（前年度148,544千円）となっています。

1. 童謡唱歌に関する事業(公益目的事業1 事業費 73,784 千円)

童謡・唱歌の普及啓発を図るため、次の3つを柱とした事業を行いました。

- (1) 童謡唱歌体験事業
- (2) 調査研究、資料収集事業
- (3) 展示事業

童謡館基金事業として実施した「童謡・唱歌 YouTube 配信事業」では、鳥取県出身の音楽家

の作品や「ふるさと」音楽賞日本創作童謡コンクールの受賞曲など全 40 曲を収録し、YouTube 上のわらべ館公式チャンネルで公開しました。歌手及び伴奏者には、地元のアーティストを起用し、わらべ館童謡・唱歌推進員 4 組と鳥取市の芸術家バンク登録アーティスト 2 組が出演しました。世間によく知られた曲だけでなく、歌われる機会は減ったものの鳥取にゆかりのある多数の佳曲を映像音源として後世に記録することができ、童謡館事業として大きな意義がありました。

2. おもちゃに関する事業(公益目的事業2 事業費 73,670 千円)

おもちゃ文化の普及啓発を図るため、次の3つを柱とした事業を行いました。

- (1) おもちゃ文化体験事業
- (2) 調査研究、資料収集事業
- (3) 展示事業

おもちゃ館基金事業としては、鳥取市とドイツのハーナウ市が姉妹都市提携を結び、本年 11 月 20 日で 20 周年の節目に当たることから、11 月 10 日からの 14 日間(休館日除く)、当館を会場に、ドイツに関連したコンサートやおもちゃ展を開催しました。さらに、これまでの市民間の交流をパネル等で紹介し、今後の交流の発展を期するものとなりました。

3. 法人管理事業(管理事業 事業費 8,081 千円)

定時評議員会のほか、理事会を 3 回開催しました。事業計画書や財務諸表等を WEB サイト上で公開し、公益法人として透明性のある法人運営に努めました。

ICT を使った業務効率化の取り組みとして、電子決裁を導入しました。